

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022 年 9 月 30 日
- 事業名 : 支援団体の動きと被災地状況をリアルタイム共有する仕組みづくりプロジェクト
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
- 実行団体 : 特定非営利活動法人岡山 NPO センター

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
要件定義 WS への参加技術者の確保	要件定義 WS への技術者の参加人数	10 名以上/参加済み	2021 年 10 月頃	2021 年 11 月 10 日に実施 参加者 13 名	2
JPF や JVOAD に加入する組織を交えての入力情報の整理 WS への参加の確保	入力情報の整理 WS への支援組織の参加人数	5 組織以上/参加済み	2021 年 10 月頃	入力情報の整理 WS へ 14 団体参加。ほかに、アンケートを 44 団体、ヒアリングを 9 団体に実施	2
プロトタイプシステムの完成	PT システムの完成とテストの完了	1 個/完成	2022 年 5 月頃	プロトタイプシステムの作成中	3
導入に関する説明会への災害支援ネットワークの参加確保	説明会への参加組織数	のべ 5 組織以上/参加済み	2023 年 12 月頃	-	3
導入に関する説明会への災害支援組織の参加確保	説明会への参加組織数	のべ 150 組織以上/参加済み	2023 年 12 月頃	-	3
発災時の導入活用	発災時の活用実績	1 回以上/被災地で利用済み	2024 年 3 月	-	3

* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
県外の支援団体やシステムの状況確認に対し、オンライン会議システムや SNS の活用により入力情報の整理やシステム開発状況の進捗確認などを行った。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部		石原 達也	特定非営利活動法人岡山 NPO センター・代表理事
内部		高平 亮	特定非営利活動法人岡山 NPO センター・事業部長
内部		岸 祐生	特定非営利活動法人岡山 NPO センター・アドバイザー

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
岡山県内の災害支援組織	「効率がよくなった」の回答	70%以上/効果を実感できている	2024年3月	事前に入力情報や必要な機能については団体へアンケートやヒアリングを通して調査を行い、開発を始めている。また、2023年5月以降には実際に災害支援団体にシステムを利用してもらいながらフィードバックを受けてより効率的な支援を行うことができるように改良していく予定。
災害支援 ネットワークが存在する地域	県外災害支援ネットワークでの導入率	50%以上/導入を決議している	2024年3月	現時点ではプロトタイプを作成中だが、できた際には説明会を実施し、広く導入への呼びかけを行っていく。
JPF や JVOAD に加入する組織	「効率がよくなった」の回答	70%以上/効果を実感できている	2024年3月	岡山県内の組織と同様に事前にアンケートやヒアリングにて事前に調査を行いながらシステム開発を行っている。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
岡山県内の災害支援組織や JPF や JVOAD に加入する災害支援組織による「効率が上がった」の回答が高い	2割達成	事前の調査では岡山県内外問わず多くの組織からの回答を得ることができた。回答に沿ってシステムを開発しており、その後のフィードバックの機会などを経て達成の見込みである。
県外災害支援ネットワークでの導入率が高い	1割達成	佐賀県災害支援ネットワークをはじめ県外の災害支援ネットワークとの協定や平時からの関係づくりは継続して行っており、システム完成時に呼びかけをしやすい環境づくりはできているが、具体的な導入までは至っていない。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	プロトタイプシステムは「アウトカムで捉える変化の主体」の意見をもとに設計しているため、想定どおりのシステムが完成すれば、短期アウトカムは達成される見込みである。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	システム完成に向けた各作業の運営管理体制に問題はないか	おおむね計画通り	スタートは少し遅れたが、その後の開発については計画通りに進んでいる。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	システムの現地活用とフィードバックの実施	未実施	2023年5月以降実際に支援団体に活用してもらいながらフィードバックをもらう予定である。
組織基盤強化・環境整備	他地域の支援組織とのネットワークの拡大	おおむね計画通り	事前の調査を通して、他地域の支援組織との現状の共有や情報交換を行うことによって継続的な関係性の構築が行われている。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・アンケートという方式をとることによって、より広く多くの支援組織から回答を得ることができた。
- ・事前にアンケートを取る際に、どのようなシステムをつくろうとしているかを共有することで、システム自体に関心を持ち、意識する一因になり、導入に向けての目線合わせができた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



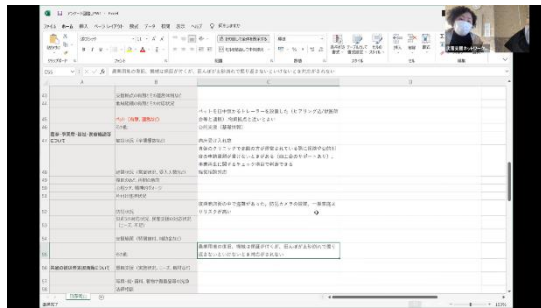
事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>システムが稼働したときに備えて、各支援組織との関係づくりやシステムについての共有など今からでもできることをしていき、迅速に導入に移っていくための準備をしていく必要がある。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

確実に期限内にシステムが完成し、実地での導入を行うために業者と密に連絡を取りつつ、定期的な情報共有と進捗確認を進め、2023年3月にベータ版を活用した訓練を実施できるように取り組んでいきたい。

添付資料

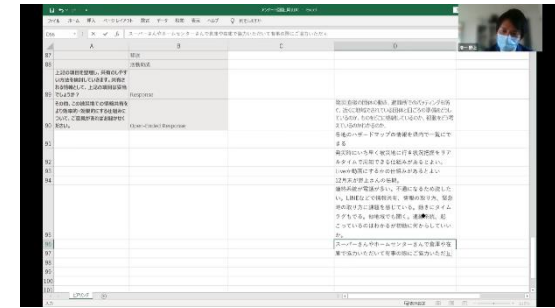
活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



PWJ さんとのヒアリング



ブリッジくまもとさんとのヒアリング



岡山 JC さんとのヒアリング